

<機械工学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(工業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、機械工学の基礎事項に重点をおき、一部実習を取り入れ、専門基礎力の養成と導入時期としてのものづくりへの興味と関心を育てる。 ・オリエンテーションやスタートアップセミナー等で学科教員が自身の専門を平易にオムニバス形式でミニ講義し、キャリアデザインにも繋がる技術者としての問題意識を芽生えさせる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、機械工学の基礎となる内容を扱う科目を開講し、将来機械設計に必要な実務能力を育てる。 ・実習、演習科目では、機械技術者の情報伝達手段としての機械製図A(演習科目)をスタートさせ、図面が読める、描ける、それによって製作される機器が想像できる能力を育てる。 ・ポランティア等教職に関する活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、力学系科目に加え、材料や加工プロセスに関する科目を開講し、機械製作全体を考える基礎的知識と能力を育てる。 ・講義科目と並行して、機械工学に関する実験科目を開講し、工学的現象を実体験によって理解するとともに機械、測定機器の使用法についても理解する。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、機械の設計や制御に必要な授業科目を開講し、機械製造に必須の基礎的事項を応用するために必要な機械設計の初歩的能力を育てる。 ・講義科目と並行して、機械工学に関する実験科目を開講し、工学的現象を実体験によって理解する。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、機械の設計や制御に必要な授業科目を開講し、機械製造に必須の基礎的事項を応用するために必要な機械設計の能力を育てる。 ・機械設計へのコンピュータの応用としてCAD/CAMを開講し、実習・演習科目とともに実践力を育成する。 ・工業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、伝熱工学やエネルギー変換等に関する科目を開講し、効率的なエネルギー利用を考えるための基礎および応用能力を育てる。 ・より複雑、高度な機械について学ぶために、工作機械等を開講し、その実例について学び、理解する。 ・工業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、春学期に引き続き卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・学期末には学科全体で卒業研究発表会を開催し、4年間の学びの集大成とする。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称					
		教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称			
1年次	春学期			工業力学		健康科学	スタートアップセミナー
				機械材料科学A		英語スキルⅠ	
	秋学期			機械工学実習A		情報スキル入門	
2年次	春学期			機械製図A		日本の憲法	
				機械工学実習B		英語スキルⅡ	
	秋学期					情報スキル活用	
3年次	春学期	1	ABC	教職概論	材料力学A	英語スキルⅢ	
		2	A	教育史	材料力学A演習	スポーツA	
					機械力学A		
					生産加工学A		
	秋学期				機械製図B		
					機械工学実験A		
		2	A	教育原論	制御工学A	スポーツB	
		2	B	教育心理	水力学A	英語スキルⅣ	
4年次	春学期	3	A	教育課程総論	総合工学概論		
		3	B	工業科教育法Ⅰ	水力学B		
		3	C	特別活動	熱力学B		
		4	AC	生徒指導・進路指導	機械設計B		
	秋学期				CAD/CAM		
		2	C	教育行政学	職業指導		
		3	B	工業科教育法Ⅱ	伝熱工学		
集中	春学期						卒業研究
	秋学期	6		教職実践演習(中・高)			卒業研究
集中	5		教育実習A				

<都市建設工学科>(認定課程:高等学校教諭一種免許(工業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、建設基礎数学、基本製図などを学習させ、今後の学習に必要な数学の基礎能力と測量・製図に関する能力を育てる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、構造力学、水理学、都市と環境などを学習させ、土木分野に必要な力学問題、都市環境整備を解決する能力および材料試験に関する能力を育てる。 ・ポランテア等教職につながらる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、土の力学、土の力学実験演習などを学習させ、力学一般および土の実験方法に関する能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、コンクリート工学、交通システム学などを学習させ、コンクリートの力学に関する能力および交通施設・都市計画に関する能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、これまで学習した内容に基づき、部門創成Aの学習により問題解決・思考能力を育て、施工法の学習により、土木分野の施工に関する能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、部門創成Bを学習させ、社会のニーズに基づいた問題の解決にあたるデザイン能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて専門分野の知識と技術を習得させ、土木技術者に必要な能力を育てる。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて専門分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2)履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				建設基礎数学		英語スキルⅠ	スタートアップセミナー
					基本製図		情報スキル入門	
					測量学講義・実習Ⅰ			
	秋学期				建設材料学			
					建設応用数学		健康科学	
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	構造力学Ⅰ演習		英語スキルⅢ	
		2	A	教育史	土の力学Ⅰ		スポーツA	
					土の力学実験演習Ⅰ			
	秋学期	2	A	教育原論	コンクリート工学Ⅰ		スポーツB	
		2	B	教育心理	交通システム学		英語スキルⅣ	
		3	D	教育方法論	都市計画			
3年次	春学期	3	A	教育課程総論	総合工学概論			
		3	B	工業科教育法Ⅰ	部門創成A			
		3	C	特別活動	施工法			
		4	AC	生徒指導・進路指導				
	秋学期	2	C	教育行政学	職業指導			
		3	B	工業科教育法Ⅱ	部門創成B			
4年次	春学期							
		2	C	学校経営論				卒業研究
	秋学期							
		6		教職実践演習(中・高)				卒業研究
	集中							
		5		教育実習				

<建築学科>(認定課程:高等学校教諭一種免許(工業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、建築に関する基礎および製図のスキルに関連する実習を通し、建築を理解する基礎的な能力を育てる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、構造力学、環境工学、建築史を学習させ、建築を構成する基礎理論を理解する能力を育てる。 ・ポランディア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目の履修を完了する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、構造力学、建築生産、環境工学、建築法規の基礎理論をさらに進んで学習させ、建築デザインIIにて小規模建物を設計手法する能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、建築設備、構造設計、建築に関する実践的技術を学習させ、建築デザインIIIにて建築空間構成の能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、建築工学演習、建築施工、構造設計にて建築に関するより実践的な知識を学習させ、建築デザインIIIにてより高度な建築を設計する能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、建築デザイン、建築設備、構造設計、建築材料の専門を選択し進んだ知識を学習させ、建築の実務にに対応する能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2)履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				建築構法Ⅰ		健康科学	スタートアップセミナー
					基礎製図A		英語スキルⅠ	
	秋学期						情報スキル入門	
					建築計画A		日本の憲法	
					構造力学Ⅰ		英語スキルⅡ	
					建築環境工学A		情報スキル活用	
2年次	春学期				基礎製図B			
					建築CAD演習			
					建築史A			
		1	ABC	教職概論	建築計画B		英語スキルⅢ	
		2	A	教育史	構造力学Ⅱ		スポーツA	
					建築生産概論			
	秋学期				建築環境工学B			
					建築デザインⅠ			
					建築法規			
		2	A	教育原論	構造設計A		スポーツB	
		2	B	教育心理	構造力学演習		英語スキルⅣ	
		3	D	教育方法論	建築材料Ⅰ			
3年次	春学期				建築設備A			
					建築デザインⅡ			
					都市計画			
		3	A	教育課程総論	総合工学概論			
		3	B	工業科教育法Ⅰ	構造設計B			
		3	C	特別活動	建築デザインⅢ			
	秋学期	4	AC	生徒指導・進路指導	建築防災			
					建築工学演習			
					建築地工計画			
		2	C	教育行政学	職業指導			
		3	B	工業科教育法Ⅱ	建築施工管理			
		4	B	学校教育相談				
4年次	春学期	2	C	学校経営論			卒業研究	
	秋学期	6		教職実践演習(中・高)			卒業研究	
	集中	5		教育実習				

<応用化学科>(認定課程:高等学校教諭一種免許(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・その他教職課程に関連ある科目は、化学専門分野の概念、社会的重要性、修得方法などを、教科に関する科目、基礎化学実験などの履修を通して、実験の基礎などを学ぶ。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目、英語や情報スキルなどの基礎を修得する。
	秋学期	・教科に関する科目、基礎分析化学、基礎無機化学、基礎有機化学などの履修を通して、化学の基本概念を、応用化学分析実験を通して、化学実験の基礎となる実験技術、化学物質の取り扱い方、安全に対する考え方を修得する。 ・ポランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目、無機化学A、無機化学実験A、有機化学実験Aなどを通して、化学専門分野の基礎となる知識を理解し、実験技術を修得する。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目、無機化学実験B、有機化学実験B、有機化学Aなどの履修を通して、専門知識を幅広く修得し、問題解決に利用できる能力を身に着ける。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・専門技術に関する知識などを「ものづくり」に関する技術へと活用できる能力を育てる。 ・理科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・問題点を見出し、解析し、問題解決する能力を身に着けるとともに、チームワークを通してコミュニケーション能力などを高める。 ・理科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・その他教職課程に関連のある科目、卒業研究などを通して化学技術者、教育者として地球規模で責任を持った行動をとること、工学倫理観を持って社会に貢献できること、与えられた課題に対して実験計画を立て、それを実行し、文章にまとめ、プレゼンテーションでできることなどの能力を育てる。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践することから学ぶ。
	秋学期	・その他教職課程に関連のある科目、卒業研究などを通して各分野、目標の総仕上げを行う。 ・教職実践演習などを通して、教職履修の総仕上げを行う。

(2)履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				化学		健康科学	スタートアップセミナー
					基礎化学実験		英語スキルⅠ	
	秋学期						情報スキル入門	
					基礎電磁気学		日本の憲法	
					熱学		英語スキルⅡ	
2年次	春学期				基礎分析化学		情報スキル活用	
					基礎無機化学			
	秋学期				基礎有機化学			
					応用化学分析実験			
		1	ABC	教職概論	基礎物理化学		英語スキルⅢ	
		2	A	教育史	生物概論		スポーツA	
3年次	春学期				無機化学実験A			
					有機化学実験A			
	秋学期				分析化学			
					無機化学A			
		2	A	教育原論	地学概論		スポーツB	
		2	B	教育心理	無機化学実験B		英語スキルⅣ	
4年次	春学期				有機化学実験B			
					有機化学A			
	秋学期							
		3	A	教育課程総論				
		3	B	理科教育法Ⅰ				
集中	春学期							
	秋学期							
	集中							
		6		教職実践演習(中・高)				卒業研究
5		教育実習A						

<応用化学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(工業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・その他教職課程に関連ある科目では、化学専門分野の概念、社会的重要性、修得方法などを学ぶ。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目、英語や情報スキルなどの基礎を修得する。
	秋学期	・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目、基礎化学工学、理論有機化学、物理化学実験Aなどを通して、化学専門分野の基礎となる知識を理解し、実験技術を修得する。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目、化学工学Aや材料化学Aなどの履修を通して、専門知識を幅広く修得し、問題解決に利用できる能力を身に付ける。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、専門技術に関する知識などを「ものづくり」に関する技術へと活用できる能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、応用化学創成実験などの履修により、問題点を見出し、解析し、問題解決する能力を身に付けるとともに、チームワークを通してコミュニケーション能力などを高める。 ・工業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・その他教職課程に関連のある科目、卒業研究などを通して化学技術者・教育者として地球規模で責任を持った行動をとること、工学倫理観を持って社会に貢献できること、与えられた課題に対して実験計画を立て、それを実行し、文章にまとめ、プレゼンテーションでできることなどの能力を育てる。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践することから学ぶ。
	秋学期	・その他教職課程に関連のある科目、卒業研究などを通して各分野、目標の総仕上げを行う。 ・教職実践演習などを通して、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期						健康科学	スタートアップセミナー
							英語スキルⅠ	
	秋学期						情報スキル入門	
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	基礎化学工学		日本の憲法	
		2	A	教育史	理論有機化学		英語スキルⅡ	
					物理化学実験A		情報スキル活用	
	秋学期	2	A	教育原論	物理化学実験B			スポーツA
		2	B	教育心理	化学工学A			
		3	B	教育方法論	物理化学A			英語スキルⅣ
					材料化学			
3年次	春学期				無機化学B			
		3	A	教育課程総論	化学工学実験			
		3	B	工業科教育法Ⅰ	有機合成化学実験			
		3	C	特別活動	材料化学実験			
		4	AC	生徒指導・進路指導	機器分析化学A			
					化学工学B			
	秋学期				有機化学B			
					物理化学B			
					総合工学概論			
		2	C	教育行政学	職業指導			
		3	B	工業科教育法Ⅱ	応用化学創成実験			
		4	B	学校教育相談	機器分析化学B			
4年次	春学期				電気化学			
					化学工学C			
	秋学期	2	C	学校経営論				卒業研究
		6		教職実践演習(中・高)				卒業研究
集中	5		教育実習A					

<情報工学科>(認定課程:高等学校教諭一種免許(情報))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、情報処理技術に関する基礎的な能力を育てる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、幅広く学習することを通じて創造的な取り組みを行うための基礎的な能力を育てる。 ・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、情報分野の軸となる科目群を履修することで情報基盤に重点を置いた能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、情報分野の軸となる科目群を履修することで情報基盤に重点を置いた能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、上流工程を意識したプログラム作成・活用する能力を育てる。 ・情報科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、上流工程を意識したプログラム作成・活用する能力を育てる。 ・情報科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・教科に関する科目では、卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通じて、教職履修の総仕上げを行う。

(2)履修モデル

履修年次		具体的な科目名称						
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
		科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	春学期				創成A		健康科学	スタートアップセミナー
							英語スキルⅠ	
	秋学期						情報スキル入門	
								日本の憲法
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	形式言語とオートマトン		英語スキルⅢ	
		2	A	教育史	C言語応用		スポーツA	
					計算機アーキテクチャ			
					情報技術者演習A			
	秋学期	2	A	教育原論	データ構造とアルゴリズム		スポーツB	
		2	B	教育心理	データベース		英語スキルⅣ	
		3	D	教育方法論	創成D			
					プログラム演習			
3年次	春学期	3	A	教育課程総論	コンパイラ			
		3	B	情報科教育法Ⅰ	情報工学実験Ⅰ			
		3	C	特別活動	オペレーションズリサーチ			
		4	AC	生徒指導・進路指導	ソフトウェア工学			
					画像情報処理			
					デジタル信号処理			
	秋学期				通信ネットワーク			
		2	C	教育行政学	企業情報システムと倫理			
		3	B	情報科教育法Ⅱ	音声情報処理			
		4	B	学校教育相談	コンピュータグラフィックス			
4年次	春学期				情報と職業			卒業研究
	秋学期	6		教職実践演習(中・高)				卒業研究
集中	5		教育実習					

<情報工学科> (認定課程: 高等学校教諭一種免許(工業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	・教科に関する科目では、情報処理技術に関する基礎的な能力を育てる。 ・オリエンテーション等で教職課程の授業について知る。66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	・教科に関する科目では、創造的な取り組みを行うための基礎的な能力を育てる。 ・ボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組む。66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	・教科に関する科目では、情報分野の中でも特に工業系基礎に重点を置いた能力を育てる。 ・教職概論などの教職についての基礎理論を学び、教職課程の心構えをつくる。66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	・教科に関する科目では、H/WやF/Wに関する基礎的な能力を育てる。 ・教育原論などにより教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	・教科に関する科目では、オブジェクト指向へのパラダイム変革に対応し活用する能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	・教科に関する科目では、オブジェクト指向へのパラダイム変革に対応し活用する能力を育てる。 ・工業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	・卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教育実習に臨み、学校現場の実践から学ぶ。
	秋学期	・卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行う。 ・教職実践演習等を通して、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称							
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
		科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	春学期				情報処理演習		健康科学	スタートアップセミナー	
							英語スキルⅠ		
	秋学期						情報スキル入門		
					情報数学			日本の憲法	
2年次	春学期	1	ABC	教職概論	数値解析		英語スキルⅢ		
		2	A	教育史	デジタル回路		スポーツA		
					創成C				
						情報セキュリティ			
	秋学期	2	A	教育原論	情報理論			スポーツB	
		2	B	教育心理	オペレーティングシステム			英語スキルⅣ	
		3	D	教育方法論	システム制御工学				
						データベース演習			
	3年次	春学期	3	A	教育課程総論	総合工学概論			
			3	B	工業科教育法Ⅰ	オブジェクト指向言語			
			3	C	特別活動	知能情報工学			
			4	AC	生徒指導・進路指導				
秋学期		2	C	教育行政学	職業指導				
		3	B	工業科教育法Ⅱ	計算論とプログラミング言語論				
		4	B	学校教育相談	機械学習				
4年次	春学期	2	C	学校経営論				卒業研究	
	秋学期	6		教職実践演習(中・高)				卒業研究	
	集中	5		教育実習					

<電気電子システム工学科> (認定課程:高等学校教諭一種免許(工業))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	春学期	教科に関する科目では、静電界を中心とした電気磁気学の基礎、また交流回路を中心とした電気回路の基礎を学習させ、工業における電気基礎を理解できる基礎的な能力を育てる。またオリエンテーション等を通して教職課程の授業について理解し、66条の6に定める科目の履修を開始する。
	秋学期	教科に関する科目では、電気分野で不可欠な数学の基礎と活用法を、真空以外の誘電体を含む静電界を中心とした電気磁気学の基礎を、交流回路を中心とした電気回路の基礎を理解する能力を養い、工業における工業数理基礎や電気基礎を理解できる能力を育てる。またボランティア等教職につながる活動に積極的に取り組み、66条の6に定める科目を履修する。
2年次	春学期	教科に関する科目では、磁界ならびに電磁界を中心とした電気磁気学の基礎、多相交流や過渡現象を中心とした電気回路の基礎、電気機器の基本、電氣を利用した測定技術を中心とした工業技術の基礎や電子計測制御、材料技術の基礎や工業材料、および実践的工業技術の基礎を理解する能力を養う。また教職についての基礎理論を学ぶこと、教職課程の心構えをつくり、66条の6に定める科目の履修を完了する。
	秋学期	教科に関する科目では、分布定数回路を中心とした電気回路の基礎、トランジスタ増幅回路を中心とした電子回路の基本、電力技術の基礎、電力制御技術の電子機械への適用、工業材料の応用、電子の挙動を活かした電子デバイス技術、プログラミング技術の基礎を修得させる。また教育の意義・方法についての基礎理論を学ぶ。
3年次	春学期	教科に関する科目では、通信用電子回路、電力応用技術、電気管理技術、エネルギー制御を用いた電子機械の応用、電子計測などに用いられる制御技術、電気装置の基本、デバイスにおける電子技術を理解できる能力を育てる。また情報技術基礎、電子機械応用、自動車工学などの各工業技術を網羅的に学習し、工業全般の視野を養う。そして工業科教育法Ⅰを中心に指導の内容と方法についての理解を深める。
	秋学期	教科に関する科目では、電力システムの応用技術、環境工学基礎、工業技術基礎(環境と技術)、通信技術、プログラミング技術の応用、ハードウェア技術、ソフトウェア技術、コンピュータシステム技術、電子情報技術、工業技術実習を習得させ、課題研究および実習を実施する。そして工業科教育法Ⅱを中心に指導の内容と方法についての理解を深め、教育実習の準備をする。
4年次	春学期	卒業研究を通して各分野の総仕上げを行うとともに、専門教育を通して工業の各分野に関する知識と技術を総合的に習得させ、その過程で、教科に関する科目を振り返り、教職に必要な素養を拡充する。また教育実習に臨み、学校現場の実感から学ぶ。
	秋学期	卒業研究を通じて各分野の総仕上げを行うとともに、教科に関する科目で履修した内容を再確認し、教育現場に臨む準備を仕上げる。また通信法規を通じて、法律における通信技術に関する規則の体系化を理解できる能力を養うとともに、教職実践演習等を通して、教職履修の総仕上げを行う。

(2) 履修モデル

履修年次		具体的な科目名称							
年次	時期	教職に関する科目			教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
		科目区分	必要事項	科目名称					
1年次	春学期				電気磁気学Ⅰ		情報スキル入門		
					電気回路AⅠ		健康科学		
	秋学期				電気数学演習		英語スキルⅠ		
					電気磁気学Ⅱ		情報スキル活用		
2年次	春学期				電気回路AⅡ		日本の憲法		
					電気回路演習Ⅰ				
		1	ABC	教職概論	電気磁気学Ⅲ		スポーツA		
		2	A	教育史	電気回路演習Ⅱ				
	秋学期					電気回路BⅠ			
						電気エネルギー変換機器Ⅰ			
						電気計測			
						電気電子材料			
						電気電子工学実験A			
		2	A	教育原論	電気回路BⅡ				
		2	B	教育心理	電子回路Ⅰ				
		3	D	教育方法論	電力工学				
	3年次	春学期				パワーエレクトロニクスA			
						物性科学			
						電子デバイス工学			
						プログラミングⅡ			
秋学期						電子回路Ⅱ			
						放電プラズマ・絶縁工学			
		3	B	工業科教育法Ⅰ	電気法規及び施設管理				
		3	C	特別活動	パワーエレクトロニクスB				
		4	AC	生徒指導・進路指導	自動制御				
					電気設計及び製図				
					半導体工学				
					総合工学概論				
4年次	春学期				電力応用システム				
					新エネルギーシステム				
	秋学期	2	B	工業科教育法Ⅱ	電機システム制御				
		4	B	学校教育相談	ワイヤレス通信				
集中				電気電子創成工学B					
				電気電子創成工学D					
4年次	春学期				電気電子技術英語				
					職業指導				
	秋学期								
集中	5		教育実習						